

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771400411		
法人名	有限会社 松良福社会		
事業所名	あすなる ひだまり		
所在地	石川県河北郡津幡町御門ろ64-2		
自己評価作成日	令和2年12月12日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイワイエイ研究所
所在地	金沢市無量寺5丁目45-2 サンライズⅢ106号
訪問調査日	令和2年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた地域の特性を活かし ゆったりと自由に過ごしていただけるよう支援し、また多目的ホールに設置した薪ストーブを囲み ゆっくりとした時間が流れるよう雰囲気作りをしています。新型コロナの影響で 地域の中へ出る機会や馴染みの方や地域のボランティアが訪れる機会はなくなりましたが、ご家族には、感染対策の上 事前に予約して面会していただいています。夏には地域住民の要望もあり 例年同様 花火を打ち上げました。中庭に畑を作り野菜や花を植えたり ウッドデッキに出て洗濯物を干し 利用者同士連れ立って散歩に行くなど 日常的に外に出ることが出来るよう工夫しています。職員も地区のごみステーションの当番を担い 地区のくらし安心ネットワークでの活動も続けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行]

自己	外部	項目	自己評価	次のステップに向けて期待したい内容	外部評価
			実践状況		実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングなどの場で共有し 常に理念に沿ったプランを立て 実践につなげるよう努力している。事業所内やパンフレットに理念を掲示し 意識するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり 利用者が地域に出ることは極力控えているが、地域のネットワークの勉強会で情報発信をしたり 地域住民や民生児童委員の相談に応じている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あすなる通信で生活支援の方法を紹介したり 英田地区安心ネットワークへの参加・協力、サポーター養成講座や認知症相談なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様家族や地域住民と意見交換を行い、結果をミーティングなどで話し合い サービスの向上に努めている。ユニットリーダーなど職員の参加をもっと増やしたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が地域包括支援センター職員や社会福祉協議会職員などと協力関係を築くように取り組んでいる。運営推進会議には町の担当者が必ず参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットに「具体的な禁止項目」を掲示し、利用者の安全第一を意識し 身体拘束しないケアに努めている。夜間以外は施錠はせず自由に外出できるようになっている。強制や否定をしないケアを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	次のステップに向けて期待したい内容	外部評価
			実践状況		実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	アンガーマネジメントの勉強会を行ったり 職員同士が困りごと、ストレス等話しやすいようにし お互いに注意しあうようにしている。利用者様の心身の状態を観察し興奮される方のケアなどは時間を置いたり 複数介助するなどお互いに 無理のないケア方法をミーティングなどで検討し実践している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が 関係者との話し合いや活用支援を行っているが、学ぶ意欲を持つ職員には研修の機会を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が本人・ご家族に説明し、納得が得られて入所されている。実際のホーム内や生活の様子・職員の関わり方などは写真や動画で説明し 理解した上で入所していただくよう努めている。改定の際も承諾を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域住民や家族・自治体職員が参加する運営推進会議の場や面会時にご意見などいただけ利用働きかけている。いただいた意見要望はミーティングなどで話し合っ反映させるよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案を聞き反映させるようにしている。利用者の状態に応じ必要と思われることは、チームで協議の上反映されている。勤務時間・介護用品・ケア方法など管理者だ現場のシフトに入っているので意見や要望を言いやすい		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望・資格手当、職員個々の家庭の事情などにも配慮し やりがいと向上心を持ち 働きやすいよう支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務経験に応じた研修参加を支援している。職員全員が積極的に外部への研修の参加するよう奨める必要がある。各職員の資格を生かし さらなる資格を取るための配慮がなされている		

自己	外部	項目	自己評価	次のステップに向けて期待したい内容	外部評価
			実践状況		実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の交流や勉強会 他グループホーム見学などの希望はあるが実施に至っていない 管理者間での情報交換は行っている		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各職員が本人の不安や要望に耳を傾け、感じたことを共有し、本人にとって安心できる支援方法を皆で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族が困っていたことや不安なことやご本人のこれまでの生活の様子などを細かくお尋ねし ご家族の要望もケアプランに反映できるようにし 信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や相談時に 本人・家族の思いや希望を把握し 本人にとって一番必要なことを見極め、認知症対応型共同生活介護以外のサービス利用の提案や紹介をしている。他サービスの提供責任者と協力し本人に合ったサービス利用につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあえる関係作りを意識している 持てる力を発揮できるようアプローチしている。利用者の状況によっては ままならない場合もあるが 何気ない行動や言葉で伝えられることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会に 状況をお伝えし情報を共有している。互いに協力して本人を支えるよう密に連絡を取りあっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は 面会や外出は制限があり電話や手紙での交流を勧め、馴染みの場所へドライブする程度。 本人が忘れてしまわないよう 聞き取った情報をもとに本人と話し思い出してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	次のステップに向けて期待したい内容	外部評価
			実践状況		実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が歓談したり 助け合っって一緒に家事ができるよう 座席配置したり 自室へ閉じこもりがちな方に職員が声を掛けたり 他利用者との間を取り持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスへ本人家族が安心して以降できるよう支援している。入居前のケアマネジャーとの交流もある。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情・しぐさ・行動など日ごろの関わりの中で本人の思いを汲み取り 本人本位の生活を大切考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・サービス担当者等から これまでの生活環境・生活歴・病歴・趣味・食べ物の好み・性格・サービス利用状況などを職員が把握し、共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録(介護記録)による状況把握や申し送り・ミーティングで個々の現状の把握に努めている。本人の好きなように過ごしていただいているが 生活のリズムを整え共同生活に支障をきたさぬよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティングでカンファレンスを行い、介護記録に残した本人の思いや家族の意向を共有し支援方法を検討し 介護計画を作成している。ご家族来訪時に意見をいただいたりケアプランを説明し 承諾のサインを頂いています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、申し送り、変化のあることは日誌の連絡事項にも記入し 職員間で共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。病状の変化など状況に応じてケア方法や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思い、必要とされることは、可能な範囲で柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	次のステップに向けて期待したい内容	外部評価
			実践状況		実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を取り入れ生き生きと楽しめる生活を支援できるようにしたい。 ボランティア活動の受け入れ・生き生きサロンに出かけるなど。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は管理者が付き添い 状況を医療関係者に伝えている。家族付き添いで受診の場合は状況をお伝えし受診結果を記録し共有している。急変時は状況がわかる職員が必ず付き添い 医療との連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や管理者に報告・相談し 必要な処置受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者は協力医療機関のソーシャルワーカーなどと情報交換や相談ができるよう努めている。 ケアマネジャーや介護職員もお見舞いに行き状況を把握するよう努めているが、現在は電話連絡程度。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居申し込みの段階からホームの方針や事業所ができることを説明している。対応できる範囲での支援方法をチームで共有している。 本人・家族が安心できる環境・関係作りに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し救命救急の講習を受け 応急手当や初期対応をの訓練を受けているが実践力には不安がある。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	連絡網や行方不明などの緊急時のマニュアルが作成してあり見やすいところに掲示してある。		

自己	外部	項目	自己評価	次のステップに向けて期待したい内容	外部評価
			実践状況		実践状況
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	バックアップ機関が確保されている。医療機関とは利用者の受診・入退院・入居相談など平日頃から連携を図るよう努めている。福祉施設等とは併設の居宅支援事業所との連携はある。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニットに一名ずつ夜勤者がおり、協力し合っている。管理者が近くに居住しておりすぐ連絡することになっている。緊急連絡網に沿い職員を招集する体制もある。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり避難訓練を行っている。地域との協力体制がある。避難訓練は行われていても 実際には不安がある。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	スプリンクラーの設置、備蓄品の確保。利用者個々の心身状態により避難方法や避難経路を検討し訓練を行っている。		
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定しやすい言葉かけを行う。自尊心を傷つけない声掛け、人格を尊重した対応を心掛け意識している。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできるような声掛けを心がけ なるべく本人に自己決定してもらっている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の意向を優先することはないが、本人が希望を表出された以外は、職員から希望を聞くことは少なく 何気なく毎日が過ぎていように思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	次のステップに向けて期待したい内容	外部評価
			実践状況		実践状況
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の持っているものから好みで選んでいただくようにしている 職員が用意する場合は 動きやすく本人の雰囲気合ったものと考えている。清潔保持に努め、寝癖を櫛で梳いたり爪を切ったりしている		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付けや食器拭きなど本人に合わせて役割を担っていただいている。 誕生日にはできるだけ本人の好きなものを作っている。 感染予防のため 利用者と職員と一緒に食事をしないようにしている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に食事量や水分量の変化に注意し 必要な方には 摂取量を記録し 職員間で共有している。器や形態を変え こまめに勧めたり工夫している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に口腔ケアを促し義歯を外し消毒している。残存歯のある方は磨き残しが無いよう手伝っている。毎食後お茶を多く飲んでいただき残差物が無いようにしている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援の必要な方の排泄時間がわかるよう工夫しており 職員が誘導している。ズボンの上げ下げなど少しでも本人にできることをしてもらい必要な部分だけ介助している。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況の把握に努めている。乳酸菌飲料・オリゴ糖の利用、水分摂取量に注意している。排便間隔を把握し 緩下剤など使用している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を一応決めているが、時間は利用者のペースやタイミングに合わせている。利用者がゆっくり入浴でき職員もゆっくり関わることができるようにしている。本人の希望があれば いつでも入浴できる準備はある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	実践状況
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れなかった方は午前中はゆっくり休むことができるよう申し送りなどで伝えている。眠れない様子が見られたら一緒にテレビを見て過ごしたり飲み物を勧め 落ち着いて眠れるよう環境作りをしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬を一覧表にし内容がわかるようにしている。薬の情報はいつでも確認できるようにしている。処方変更による状態の変化に注意している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理などの家事や手芸、畑仕事など特異なことを楽しみながらできるよう支援している。お花見などのドライブに出ているが、一人ひとりにあった楽しみや気分転換の機会を増やしたい。自室で一日中休んでいる方の楽しみや気分転換に支援を考えたい。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年は外出自粛で ドライブか 近隣の散策などに限られている。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は理解し使えるよう支援しているが 外出しての買い物もできず 使う機会がほとんどない。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で家族などと話したり、手紙や年賀状のやり取りができるよう支援している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・光・温度などを調整している。 リビングのカーテンを開け 外の景色が見えるようにし季節を感じられるようにしている。大きな音を出さないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	次のステップに向けて期待したい内容	外部評価
			実践状況		実践状況
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席やテレビ前のソファ、和室、暖炉がある多目的ホールのソファやテーブルなどくつろげる場所が多くあり、気の合った利用者同士が雑談したり思い思いに過ごしている。隣のユニットに行っておしゃべりをする方もいる。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の壁にご家族の写真や誕生日のメッセージカードを飾ったり、テレビや冷蔵庫を置いている利用者もおり 生活感や温かみのある居室になるよう気を配っている 使い慣れたものを持ってきていただくようにしているが なかなか無い。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室の場所が分かりやすいよう工夫している。廊下・浴室・トイレなどに手すりが設置されている。車椅子や歩行器でも安全に暮らしやすいよう ベッドやテーブル・椅子の配置や高さを調整している。		